

## 虚実交々 東西『遊園』駅事情

愛知県北部の木曾川河畔、私の自宅の近くに名鉄犬山線「**犬山遊園**」駅がある。この地に住むようになって30年近くになるが、この駅名にちょっと引っかかっている。駅名は「犬山遊園」なのだが、駅を降りても犬山遊園なる遊園地はどこにもなく、もちろん付近にもそんな町名はないのだ。この駅が開設されたのは戦後間もない1949（昭和24）年、当時は確かに小さな遊園地があったそうだが、1956（昭和31）年に市内の丘陵地に犬山ラインパーク（現日本モンキーパーク）という本格的な遊園地が完成すると、その遊園地は消滅してしまった。しかし、半世紀以上たった現在も、「犬山遊園」という駅名だけが残っている。

神奈川県内にもよく似たケースがある。川崎市内を走る小田急線の「**向ヶ丘遊園**」駅だ。こちらの場合も駅周辺に向ヶ丘遊園はない。向ヶ丘遊園は戦前から地域の人々に親しまれてきた遊園地だが、2002（平成14）年に閉園となった。しかし、駅名はそのままだ。東京周辺ではこのような例は珍しくはない。東急東横線の「**都立大学**」駅、その隣の「**学芸大学**」駅、西武新宿線「**都立家政**」駅の場合も、現在、駅周辺には移転や改称によって駅名の由来となった学校は存在しない。なぜ、実態と合わない駅名がそのまま残るのだろうか。いずれの場合も銀行やコンビニが〇〇駅前店という名称を使うなど、付近の地名としてすでに地域住民のあいだに定着しているため、変更を見送ったということだ。入試日には間違っただけで駅を降りる受験生がいると聞いたが気の毒である。

他の地方でも同じだろうか。実は大阪府内の南海高野線に「**狭山遊園前**」という駅が2000（平成12）年まであった。前述2例の遊園駅と由来は同じで、この駅近くにはかつて狭山遊園と呼ばれる人気の遊園地があり、ピーク時には年間50万人を超える人々で賑わっていた。しかし、時代の波には勝てず、この遊園地も2000（平成12）年に閉園。ただ、駅名がそのままではおかしいということで、こちらの場合、駅名は同じ年に「**大阪狭山市**」に改称された。同じ大阪だが、私の母校の最寄り駅である阪急千里線の

「**関大前**」駅も、戦後の一時期、やはり近くにあった遊園地の名を取って「**千里山遊園**」と呼ばれていた。ちなみに、「**関大前**」は**花壇前**→**千里山遊園**→**千里山厚生園**→**女学院前**→**花壇町**→**関大前**と、付近の施設が変わるたびに6回も駅名が変更された。駅名変更回数日本一の駅だ。ただ、卒業生としては残念だが、日本一とはいえほとんど知られていない。

駅名日本一として、鉄道ファンならおそらく誰でも知っているのは鳥根県の一畑電鉄「**ルイス・C.ティファニー庭園美術館前**」駅だ。雑誌やテレビでも紹介された日本一長い名の駅だった。“**だった**”というのは、日本一の駅として訪れる観光客は多かったが、ただ、駅名の由来となった美術館の入場者数のほうがさっぱりで、2007年に美術館が閉鎖されてしまい、2カ月後には駅名も「**松江イングリッシュガーデン前**」に改称されて、日本一の駅ではなくなってしまったのだ。赤字に悩むローカル鉄道会社に多大な経済効果をもたらしていたこの駅名をそのまま残そうという意見もあったが、結局は実際になくなった施設を駅名に使うのはおかしいと判断された。

関西では、「もう遊園地（美術館）があらへんのに、遊園（美術館）ちょう駅名はちょっと変やで」と、地域の実態に合った駅名でなければ住民は納得しない。しかし、東京の人々は（愛知県もそうだが）、そのあたりは寛容というか、「みんなが馴染んで使っている駅名なら別にいいんじゃない」と、そこに遊園地や大学が実際にあるかどうかは問題にしない。「名より実」にこだわる関西人と「実より名」を重んじる関東人の気質の違いだろうか。

この9月、向ヶ丘遊園跡地に藤子・F・不二雄ミュージアムがオープンしたが、いっそ向ヶ丘遊園駅を「**藤子・F・不二雄ミュージアム前**」に改称（バス停名はすでに改称）すると、日本一長い名の駅になるのだが…。

### 地理の素

宇田川勝司の  
第35回

●宇田川勝司（うだがわかつし）

大阪府岸和田市生まれ。関西大学文学部史学科（地理学）卒業。現在は愛知県岡崎市に居住し、岡崎城西高校（愛知県）に勤務する。「ヒックリ」・「意外日本地理」（朝日社）「数字が語る現代日本のウラオモ子」（学研新書）「宇田川勝司先生の地理」（学研教育出版）などの著書があり、他にも新聞・雑誌・専門誌などに特集やコラムを執筆・監修するなど多方面に活動を展開している。